

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【公開番号】特開2005-348078(P2005-348078A)

【公開日】平成17年12月15日(2005.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2005-049

【出願番号】特願2004-165034(P2004-165034)

【国際特許分類】

H 04 N 5/92 (2006.01)

G 11 B 20/10 (2006.01)

G 11 B 27/00 (2006.01)

【F I】

H 04 N 5/92 H

G 11 B 20/10 3 1 1

G 11 B 27/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月2日(2006.8.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

リアルタイムに送信されるテレビ放送番組コンテンツの映像信号と音声信号からMP4ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータを生成するフラグメントデータ生成手段と、

このフラグメントデータ生成手段にてMP4ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータに生成されるテレビ放送番組コンテンツの総時間をカウントする総時間カウンタ手段と、

前記フラグメントデータ生成手段にて生成されたフラグメント形式のフラグメントデータをフラグメント毎に記録メディアに記憶させると共に、この記録メディアにフラグメント毎のフラグメントデータが記録される都度、前記フラグメント形式の第1フラグメントのヘッダの所定フィールドに前記総時間カウンタ手段によりカウントされた総時間を暫定値として上書き更新させる記録メディアインターフェイス手段と、
を具備することを特徴とした録画装置。

【請求項2】

前記フラグメントデータ生成手段と前記記録メディアインターフェイス手段との間に、前記フラグメントデータ生成手段により生成されたフラグメント形式のフラグメントデータの少なくとも1フラグメント分のフラグメントデータを記憶させるフラグメントデータバッファ手段を設け、このフラグメントデータバッファ手段に1フラグメント分のフラグメントデータが記憶されると、その記憶されたフラグメント分のフラグメントデータを前記記録メディアに記録させることを特徴とした請求項1記載の録画装置。

【請求項3】

前記フラグメントバッファ手段に記憶された1フラグメント分のフラグメントデータが前記記録メディアに記録される際に、そのフラグメントの前のフラグメントまでの前記総時間カウンタ手段によりカウントされた総時間を第1フラグメントのヘッダの所定フィールドに上書き更新することを特徴とした請求項1記載の録画装置。

【手続補正2】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0010**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0010】**

本発明の録画装置は、リアルタイムに送信されるテレビ放送番組コンテンツの映像信号と音声信号からMP4ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータを生成するフラグメントデータ生成部31と、

このフラグメントデータ生成部31にてMP4ファイルフォーマットのフラグメント形式のフラグメントデータに生成されるテレビ放送番組コンテンツの総時間をカウントする総時間カウンタ部33と、

前記フラグメントデータ生成部31にて生成されたフラグメント形式のフラグメントデータをフラグメント毎に記録メディア20に記憶させると共に、この記録メディア20にフラグメント毎のフラグメントデータが記録される都度、前記フラグメント形式の第1フラグメントのヘッダの所定フィールドに前記総時間カウンタ部33によりカウントされた総時間を暫定値として上書き更新させる記録メディアインターフェイス16と、を具備することを特徴としている。